● 株式会社のはじまりは？

株式会社のはじまりは，17世紀オランダやイギリスにできた「東インド会社」であるといわれている。この会社は，船を仕立てて東インド諸島や東南アジアに香辛料などを仕入れに行っていた。船を仕立てて出かけるには多額の資金が必要になるため，出資者を募って船を準備し，無事帰還すれば儲かった利益を出資額に応じて「シェア」（分ける）する仕組みをつくった。これが株式会社のはじまり。だから，今でも英語で株のことを「シェア」（share）という。

ところで，船が途中で沈没したらどうなるか。そうなると出資金はもどってこない。しかし，それ以上の責任はない。もちろん，残された船乗りの家族の心配などすることもない。責任が有限であることをあらわすことばが「リミテッド」（有限）。だから英語で株式会社のことをリミテッド-カンパニー（limited company＝Ltd）という。

●株式会社と個人企業，どうちがうか？

資本主義社会は，私的所有権制度（私有財産制）によって成り立っている。これは，「ヒトがモノを所有する」ということ。

たとえば，リンゴの木の所有者は，リンゴの実を自分で食べてもいいし，それを売って儲けてもいい，それどころか切り倒して暖炉にくべてもかまわない。

近所でおじさんがやっている八百屋さん（個人企業）では，店先にならんでいるリンゴやキャベツは八百屋のおじさんの所有物。おじさんは店にやってきた客に自分のモノを売っている。おじさんは，おなかが減ったとき店先のリンゴを食べてもかまわない。なぜなら，このリンゴはおじさんのモノだから。

ところが，株式会社として組織されたスーパーマーケットになるとどうだろうか。

とあるスーパーマーケットの株主であるおじさんが，たまたま自分が株主であるスーパーマーケットの売場からリンゴを取って食べてしまった。会社の株主はその会社のモノの所有者ではないのでこの行為は罰せられる。では，誰が会社のモノの所有者なのか？

それは「法人」としてのスーパーマーケット。「法人」とは英語でリーガル-パーソン（legal person＝「法の上のヒト」）のことである。法人はヒトとモノの二面性を持っている。